

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都世田谷区上馬
園名	フロンティアキッズ上馬

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

当園がそもそも取り入れているモンテッソーリ教育の感覚教具による活動でも、色板を用いたグラデーションの作成や色水の変化を楽しむ様子が多くみられていたため、教具以外でも色の活動を取り入れ、より興味が深まるようにと考えたため。

2. 活動スケジュール

乳児クラス：随時

幼児クラス：

11月～ アクリルブロックを使用した、色の混色や光での変化に触れる

1月～ 戸外活動時に木々の色などを観察し、絵具で表現する

2月～ アクリルブロックやカラースティックを使用し、そのグラデーションに気づいたり、その色を絵具で表現したりして楽しむ

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

基本的にどのクラスも、少人数で活動できるように保育室内での配置や、時間帯などの配慮をおこなった。

また水彩絵の具は、自然物の目の前で取り組むことができるよう、パレット型で1人ひとつ用意をおこなった。

準備した素材や道具

レインボーアーチブロック、アクリルのカラーブロック、グラデーションのカラースティック、ライトテーブル、書画カメラ、プロジェクター、投光器、パレット型の水彩絵の具

乳児クラス：レインボーアーチブロックで遊びながら、保育者が同じ色の存在に気づくような声掛けをすると、絵本の同じ色の上に載せてみたりする姿があった。

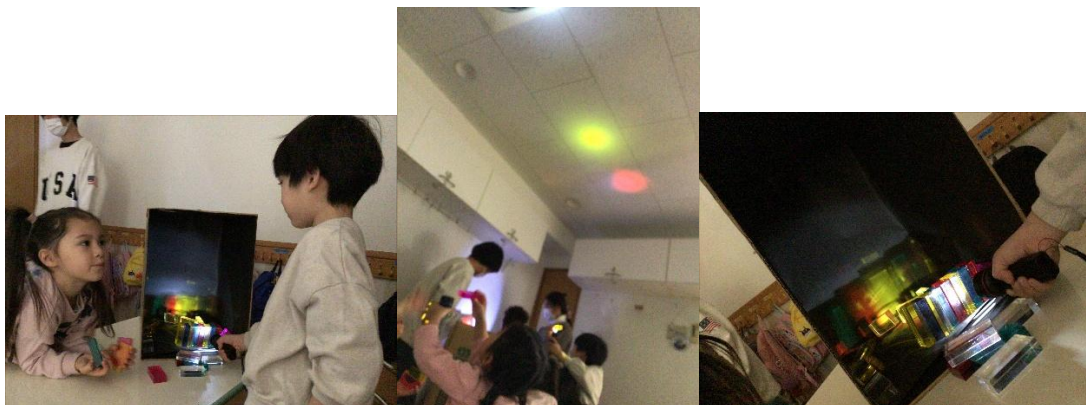
また、子どもたち同士で「あお！」と言葉に出して確認しあう様子があった。

幼児クラス：投光器やライトテーブルとアクリルカラーブロックを使用しての活動では、光源から遠く離れると色が暗くなったり、異なる色のブロックを重ねると色が変わったり、またプロジェクターを通すと少し見え方が変わるという様子に気づき、それぞれに試す様子が見られた。

戸外での絵具体験では、「こことここは色が違うよ」と同じ木の幹でも色が違う様子に気が付き、絵具で再現しようとしていた。

また、こちらはカラースティックについてグラデーションの気づきになればと考えて用意していたが、そのスティックの色を絵具で再現しようと自分たちで取り組む姿があった。





戸外での水彩絵の具



ライトテーブルとカラーブロック



プロジェクターを通した変化



カラースティックの再現

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

たくさんの色を混ぜると黒に近い色になるという子どもたちの発見もあったが、何よりも大人(保育者)も、色に対する発見がたくさんあった。

保育者自身が発見を喜び、わくわくする様子が、子どもに伝わることにより、子どもたちも、「じゃあ次はこうしてみよう」「こうなったらどうなる？」というさらなる探求につながると感じた。